

訪日外国人が必ずと言っていいほど訪れるスポット浅草。浅草寺を中心としたこの境界は外国人で溢れ、売り上げの大半を外国人客が支えている場合も少なくない。この浅草の盛況ぶりに周辺地域も確実にインバウンドでの収益を伸ばしている。しかし周辺地域の伸びには街全体が活気付いている浅草とは違い偏りがある事を先日垣間見た。

浅草から徒歩で20分程度の浅草橋。昔から人形やアクセサリーなどの中小の卸の会社などが立ち並び栄えてきたこの街も今、浅草活況の恩恵で外国人観光客を多く見る事があるという。そんな中、先日コスプレをして「殺陣」の体験ができる事で外国人から人気のスタジオを、インバウンド向けの動画撮影で訪ねた。そのスタジオの利用客の大半はやはり外国人で、ここ数年その数は伸び続けているという。やはり浅草の恩恵で街全体が盛り上がっているのかと思えばスタジオを出て街を歩いてみると日中にもかかわらず外国人を殆ど見る事がなかった。スタジオで外国人利用客で盛況と聞いた話とのギャップは何なのか？

その答は撮影を終えた20時ごろ解った。日中街を歩いた際には見かけなかった外国人が夜になるとその数を増やしていたのだ。何人かの外国人に何をしているのかを尋ねると宿泊先に帰っていると口を揃えたのだ。日中は他のエリアへ観光に出掛けていたという返答も皆同じだった。つまり浅草橋は観光エリアから便利な宿泊エリアとして外国人観光客を獲得していたのだ。その為、日中は外国人を

『売り上げを作るクールジャパンを考える⑤』

文 岸本公平

text by Kouhei Kishimoto

見かける事がなかったのだ。

浅草橋のオフィスを中心とした街は、浅草の様な街全体で日本を象徴する風情を感じる事ができる「街ブラ」スポットではない。しかし殺陣体験の様な目的が明確であり尚且つ宿泊先からの利便性が高い事では多くの利用客を獲得できているのだ。

訪日外国人が増加する中、浅草橋の様な宿泊エリアや交通機関の通過、乗り換えエリアは他にも多くある。そういったエリアでは神社仏閣などの視覚的観光資源に頼らない、文化体験などの観光要素に特化した外国人観光客の獲得施策を街ぐるみで試みるべきではないだろうか。それにより、一日を文化体験などで過ごせる街になり、土産物店や飲食店などの他業種も含め街全体が恩恵を受ける事ができるのは間違いない。



殺陣を体験する外国人観光客



Profile

株式会社NEWTRAL代表取締役
HANABIプロジェクトプロデューサー
福岡県出身。日本大学中退後、テレビ番組制作会社入社。その後ディレクター、プロデューサーなどを経て、30歳の時株式会社NEWTRALを設立。メディアで学んだ企画やプロデュースの視点を生かし、企業のコンサルティングはもとより、地方創生事業やクールジャパン事業に取り組む。